

海洋・宇宙連携の本年度の検討の進め方

平成27年度 第1回海洋・宇宙連携委員会

平成27年11月13日

目的とこれまでの経緯

■ 目的

- 本作業は、現在、JAXA衛星が観測しているデータの成果の最大化を図るとともに、将来の衛星計画の立案に資するものである。

■ これまでの経緯

- JAXAでは、海洋基本法の作成に密接に関係した有識者、ならびに海洋観測データを用いた研究や実利用分野での利活用を積極的に行っている研究機関、大学、企業等の有識者により構成される「海洋・宇宙連携委員会」を平成20年度に設置し、海洋と宇宙が連携する具体的な施策について詳細な検討を継続して行ってきた。
- その過程において、海洋状態把握のためのデータ処理解析には共通的な技術要素があること、各分野を横断し、衛星観測と現場観測を含む種々の観測データを相互補完する形で一元化・統合化し、こうして得られた観測データをモデルに同化し、それに基づいて予測・予報情報に高度化するための核となるシステム・サービス（「コアサービス」と呼ぶ）が必要であるとの結論に至った。
- JAXAでは、平成27年度も、コアサービスの実現に向けた具体的な活動に対し、その方向性や内容等についての検討、審議を行うため「海洋・宇宙連携委員会」を継続し、また、エンドユーザの利用ニーズに対応する海洋情報提供サービスを事業として展開する観点からコアサービスへの要求条件を明確にするため、「海上安全・海洋再生エネルギー」、「水産・沿岸環境」のユーザグループ（E2E分科会）を継続することとした。

平成26年度における海洋・宇宙連携委員会の成果

海洋・宇宙連携委員会および分科会の活動予定の確認

- 平成26年度の全体計画についてご審議いただいた

E2E分科会、セキュリティ分科会、沿岸予測コアグループの検討状況を確認

- それぞれの活動成果をご確認いただくとともに方向性についてご助言いただいた

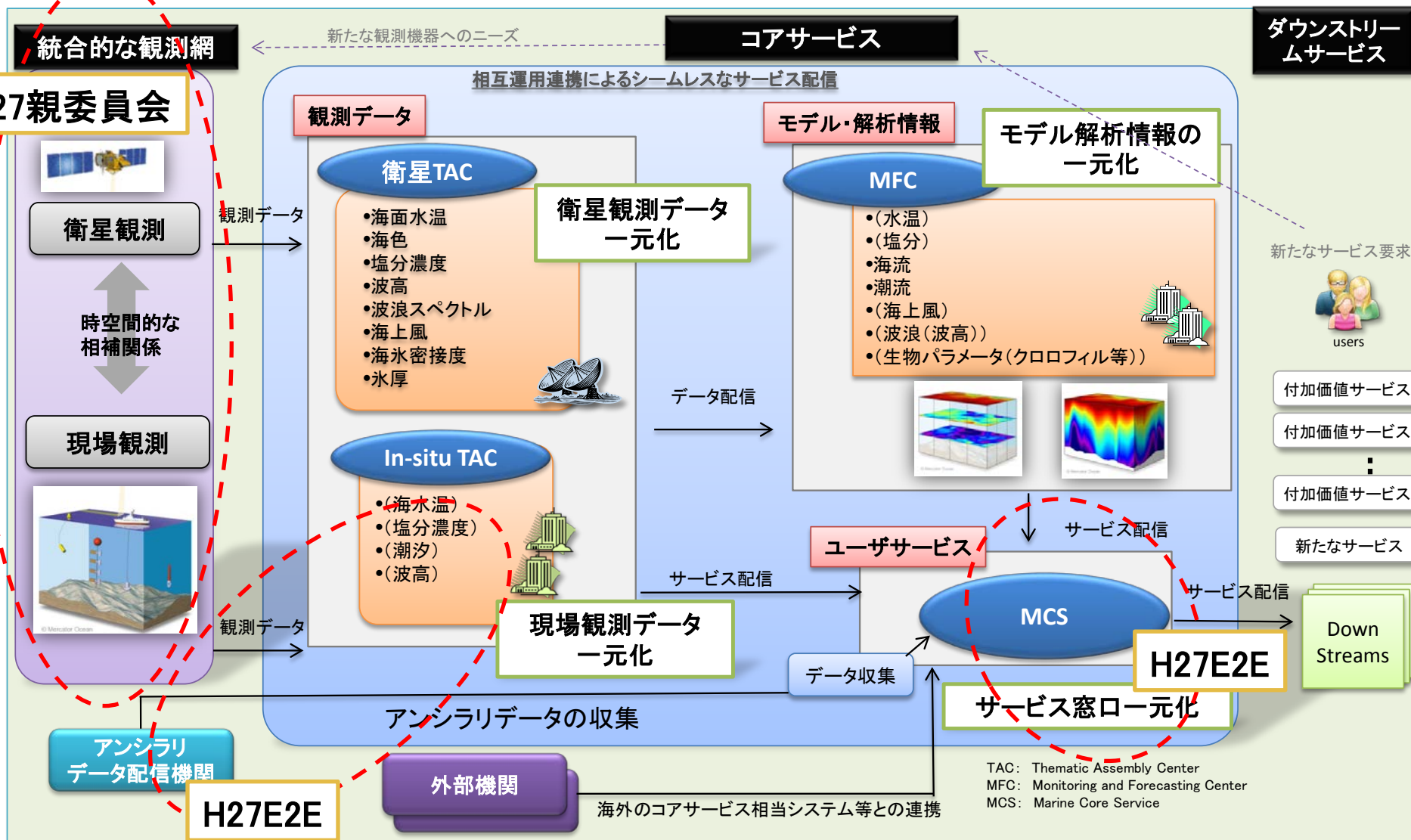
外部機関との連携の状況を確認

- 欧州MyOcean2、国内受信局との連携の状況について報告し、ご助言いただいた

海洋・宇宙連携における課題

- コアサービスに関連した課題について事務局より問題提起し、解決の方向性についてご議論いただいた

コアサービスとそれを支える統合的な観測網



これまでの検討で不足している部分

平成27年度の海洋・宇宙連携委員会のスコープ

- 本年度は、海洋・宇宙連携委員会では、コアサービスの実現およびそれを支える観測インフラの在り方、E2E分科会活動の確認および方向性、そして2016年度以降の活動計画についてご意見をいただくことを目的として、計2回の会合を開催予定である。

■ コアサービスの実現およびそれを支える観測インフラの在り方

- 統合観測ネットワークの在り方
- コアサービスユーザ要求書(E2E分科会議論結果)
 - プロダクトメニュー
 - コアサービス利用条件、サービス要件

■ E2E分科会活動の確認および方向性

- プロダクトメニュー
 - 船舶、In-Situ & アンシラリ
- コアサービス利用条件、サービス要件関連
 - データポリシー、品質管理、ヘルプセンター等
- ビジネスベンチマーク活動

■ 2016年度以降の活動計画

平成27年度の検討の流れ(案)

